

医療法人花仁会 秩父病院 医療連携会



平成26年9月1日（月）
ナチュラルファームシティ 農園ホテル



ご挨拶

医療法人花仁会 院長 花輪峰夫

本日は、当院の医療連携会に医師会、歯科医師会の先生方、医療スタッフの方々に多数お集まり頂きまして、誠に有難うございます。心より御礼申し上げます。当院は開放型病院でありますので、数年前までは登録医の先生方への報告会を開催していましたが、病院の移転等で余裕がなく、しばらくの間、行うことができませんでした。新病院になってからは今回はじめての開催でもありますが、これを機に、広く、医師会、歯科医師会、および医療スタッフの方々にご案内を差し上げ、医療連携会として開催する運びとなりました。宜しくお願い申し上げます。

今回の連携会開催の趣旨をご説明させていただきます。

『**地域で地域患者さんが十分な医療を受けられること**』が私の夢であり、この目標に近づくため、日々努力してまいりました。しかしながら、「大きな病気の治療や先進医療は秩父では出来ない」と思っている方々がたくさんおられることも承知しております。医療に関係したテレビ番組やマスコミの過剰ともいえる情報発信に伴い、当地域においても大病院志向、都会志向の傾向は日々増大しているように思われます。なかんずく、地域の医療関係者間においても個々の病院の機能や実績等は十分に把握していないというのが実情で、すぐに大学病院等へ紹介となることが多いと思われます。医療の進歩に伴い、標準的医療も日々進化しております。しかしながら、先進医療はともかく、標準的医療でさえ遠くの医療機関に行かなければならないとなれば、秩父の医療は信頼を失い市民から見放されてしまうであります。その結果、医療機関は減少し、残ったものは疲弊し、悪循環に陥り、さらに、お産も救急医療も秩父では出来ないという事態に陥れば、地域医療は崩壊します。これは正に社会基盤（インフラ）の崩壊であり、絶対に避けなければなりません。これは一民間病院のみで解決できることではありません。秩父地域の医療機関がお互いを知り合い、意を同じくし、連携を深め、一致団結協力しあって、全体として一つの質の高い総合病院を形成する必要があります。さらに超高齢化社会に向けて、管民・医療介護に関わる多職種が地域包括ケアシステムを構築しなければなりません。

そこで、まず最初に当院から『秩父病院では何をやってきたのか？何ができるのか？何を考え、今後何をやろうとしているのか』を知って頂きたいと思い、当院よりの情報発信の場をもうけさせて頂きました。これは当院の宣伝というより、長年、当地の医療の一端を担って来た、一民間病院としての気概と、医療人としての意地であるにご理解頂きたいと存じます。

当院の得意分野である消化器疾患に関しては、決して大病院に劣っているとは思っておりません。迅速さ、柔軟さ、実績、経験と長期的視野からみた安全重視の治療法、スタッフ個々

の能力等、医療の質はむしろ秀でているものも多いと自負しております。消化器がんの手術、化学療法、現在では標準的医療となった内視鏡外科手術等も積極的に行っています。正直、もっともっとお役に立ちたい、遠くに行かなくても当院でまだまだできるものは沢山あると思っております。

今年の4月に、3度目の病院機能評価の審査を受けました。4段階の評価で概ねA(優秀)でありましたが、救急部門については、S(特に秀でている)の評価を頂きました。全体を通じ改善の指摘は受けませんでした。

歯科診療につきましては、一般診療に加え、全身麻酔予定患者さんの術前口腔ケアを行っています。また、静脈麻酔下、経鼻挿管による全身麻酔下手術等、病院併設の歯科としての利点を生かした診療が可能で、現在まで少数施行していますが、今後は徐々に症例を積み重ねて行き、歯科医師会の先生方のお役に立ちたいと考えています。

一方、脳卒中、心筋梗塞など、対処不能な疾患も多くあります。そこで、これらに対処すべく、病院移転に伴い、ヘリポートを併設しました。残念ながら、これらの疾患は現時点では、高次病院に少しでも早く転送する以外なく、秩父地域にとっては、ヘリ搬送がベストと考えたからです。ヘリポートの併設は移転を決めた大きな理由の一つでもありました。

今後の当院の目標の一つに医師の養成があります。『**地域医療に適した、専門性を併せ持った一般外科医、総合内科医を育成したい**』と考えています。初期研修医の研修はすでに50名を超えました。今、後期研修医を募集しています。長期的に見て、医師の育成こそが地域医療を守る切り札と考えています。同時に広い視野を持った医師の養成は当地のような地域医療の現場でなくては出来ないことと確信しています。

今年の始めに、私が最近の医療の傾向について感じていること、および当院の現在と今後の施策を埼玉県外科医会誌に投稿しました。『地方外科医のボヤキ・嘆き・呟き』と『地域医療を支えるための当院の取り組み』という2編であります。これらは、今回の医療連携会を開催するに当たって、私の根底にある思考です。お暇な時お目を通して頂ければ幸いです。

折しも、病院の機能分担(病床機能報告制度)、都道府県の地域医療構想の策定が法制化されました。否応なく当院も自院の機能を再確認し、秩父地域医療の中での当院の役割を明確にしていかなければなりません。特別講演には埼玉県保健医療部医療整備課長の小野寺亘様をお招きし、『埼玉県における地域医療の課題と今後の方向性』という演題でご講演を頂きます。超高齢化を向かえる今後の行政の方針、ビジョン等につき、ご教授頂けると思っています。この医療連携会が秩父地域医療の今後に有益なものとなることを願っております。

皆様方のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。本日はお出で頂き誠に有り難う御座いました。

平成26年9月1日

医師紹介

常勤医師

花輪峰夫



理事長・院長

消化器・一般外科・救急医療

日本外科学会専門医・指導医

麻酔科標榜医

埼玉医科大学医学部非常勤講師

身体障害者福祉法第15条

(ぼうこう・直腸) 指定医

坂井謙一



副院長

一般内科・消化器内科

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会指導医

日本消化器病学会消化器病専門医

厚生労働省指定臨床研修指導医

プライマリ・ケア連合学会指導医

山田正己



診療部長

消化器・一般外科

日本外科学会外科専門医

プライマリ・ケア連合学会指導医

大野哲郎



外科部長

消化器・一般外科

米国外科学会フェロー (FACS)

日本外科学科外科専門医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器外科消化器外科専門医・指導医

日本消化管学会胃腸科認定医・専門医・指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

厚生労働省指定臨床研修指導医

プライマリ・ケア連合学会指導医

身体障害者福祉法第15条

(ぼうこう・直腸) 指定医

守麻理子



外科医員

消化器・一般外科

日本外科学会

日本消化器外科学会

福田千衣里



内科医員

消化器・一般内科

日本内科学会認定内科医

日本禁煙科学会認定禁煙支援士

日本消化器内視鏡学会

近山 琢

内科医員

消化器内科・肝臓内科

日本内科学会認定内科医

日本肝臓病学会

福田千晶



内科医員

一般内科

日本内科学会認定内科医

プライマリ・ケア連合学会指導医

医科 8 名

常勤歯科医師

長谷川義朗

歯科部長
総合歯科・口腔外科
明海大学歯学部非常勤助教
口腔ケア学会認定士



長谷川小百合

歯科医員
総合歯科
明海大学歯学部非常勤助教
口腔ケア学会認定士



原島 厚

歯科医員
総合歯科
明海大学歯学部非常勤講師
日本顎咬学会



歯科 3名

医師・歯科医師を除くスタッフ 計 108 名（準職員含む）

薬剤師 3 名・看護師 32 名・准看護師 11 名・診療放射線技師 7 名・臨床検査技師 3 名
管理栄養士 1 名・社会福祉士 1 名・看護補助 7 名・歯科衛生士 1 名・事務員他 31 名

外来担当表		月	火	水	木	金	土
外科	午前	花輪	大野	山田	守	花輪/田口	大野
	午後	山田	山田	守	片田	田口	金子
総合内科	午前	坂井 近山	坂井	坂井 (第2・4) 福田千晶	近山	福田千衣里 近山	福田千晶
	午後	福田千衣里	福田千晶	近山	坂井 (第2・4) 近山 (第1・3・5)	福田千衣里 福田千晶	坂井
専門外来	午前	大久保 (神経内)	佐藤 (循環器内) 畝川 (腫瘍内)	本間 (第1・3・5) (膠原病)	船生 (肝内) 新井 (乳腺) 水野 (第2) 糖尿病 鈴木 (形成)		秋田 (第2) (整形外科)
	午後	大久保 (神経内)	佐藤 (循環器内) 畝川 (腫瘍内・呼吸器内)	本間 (膠原病)	水野 (第2) 糖尿病 鈴木 (形成)		秋田 (第2) (整形外科)
歯科	午前	長谷川義朗	長谷川義朗	長谷川義朗	長谷川小百合	長谷川義朗	(第2・4)
	午後	原島 富松	原島	原島	富松	原島	長谷川義朗 原島

非常勤医師

【外来】

片田隆行 外科 片田医院 院長
日本外科学会外科認定医
日本消化器外科学会認定医

新井康弘 外科 新井医院 院長
日本消化器内視鏡学会認定医
日本外科学会外科認定医

金子幸雄 外科 金子クリニック 院長
日本外科学会外科認定医

水野究紀 内科 水野医院 副院長
糖尿病・総合内科

本間 信 内科 本間医院 副院長
日本内科学会総合内科専門医
日本リウマチ学会リウマチ専門医

大久保毅 神経内科 埼玉医科大学
神経内科・脳卒中内科 准教授
日本神経学会認定専門医・指導医

船生純志 肝臓内科
あいおいクリニック 院長
日本肝臓学会肝臓専門医

佐藤純一 循環器内科
秩父市立病院 循環器内科部長
日本循環器学会認定専門医

金子真美子 内科 金子クリニック 副院長
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器病学会専門医

畝川芳彦 腫瘍内科
埼玉医科大学国際医療センター教授
日本臨床腫瘍学会専門医・指導医

秋田 護 整形外科
日本大学医学部復職研究医員

田口 亮 外科・呼吸器外科
埼玉医科大学病院

鈴木貴和子 形成外科 埼玉医科大学病院

冨松恵美子 総合歯科

【読影・日当直・手術】

佐藤雅史 放射線科
読影会社 MS チェスト代表取締役
日本医学放射線学会専門医

石郷岡聡 脳神経科 荻原医院 院長

原 靖 脳神経科 原医院 院長

岡部和彦 整形外科 岡部医院 院長

内田将司 脳神経科 聖マリアンナ医科大学

三上 倫 整形外科 三上医院 院長

南須原宏城 麻酔科 南須原医院 院長

秩父病院における内視鏡外科手術

外科部長 大野哲郎 (H12・群馬大学)

腹腔鏡手術は、その低侵襲性、整容性に優れる等の理由から、近年多くの領域で行われるようになってきました。単に傷が小さいということだけでなく、腹腔鏡による拡大視効果により、開腹手術では見えない細い血管や神経、リンパ管といった構造をはっきりと描出することができます。これを術者、助手の全員が同じ画面で共有することにより、安全性についてはむしろ開腹手術より高まると言えるかも知れません。

当院では以前から腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っていましたが、平成 25 年 4 月に私が赴任してから、腹腔鏡補助下手術の幅を広げてまいりました。現在までに、幽門側胃切除術、噴門側胃切除術、胃全摘術、結腸切除術、鼠径ヘルニア手術、十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術等で腹腔鏡を取り入れております。また、従来の胆嚢摘出術もポートの数を減らし、臍を切開することでほとんど傷が残らない手術が可能となっています。現在のところ、癌の手術については腹腔鏡手術の適応を早期癌に絞って行っており、進行癌については開腹術を選択しています。

また、さらに早期の粘膜にとどまる胃癌について、内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic submucosal dissection: ESD) を行っています。これは、粘膜下層にヒアルロン酸を含む液体を注入し、十分に粘膜を挙上した後、内視鏡用電気メス等を用いて粘膜下層を剥離し、病変を一括切除する方法です。スネアで切除する EMR 法では分割切除になってしまうような広い病変も適応になります。安全性と患者さんの負担を考慮し、ESD は全例全身麻酔で行っています。また、広い病変に対しては独自の方法として、2 本の内視鏡を用い、外科手術のコンセプトに基づいたカウンターラクションをかける方法で行っています。当院ではガイドライン病変および適応拡大病変を対象として ESD を行っています。

今回は、当院で行っているこれら内視鏡外科手術について、ビデオを供覧してご紹介いたします。

当院の多列化 CT と臨床応用

副院長 坂井謙一 (S63・東邦大学) /放射線技師長 近藤和彦

近年 CT の多列化が進み、16 列～64 列マルチスライス CT が主流となっています。当院においては今年 2 月に東芝製 80 列マルチスライス CT “PRIME” を導入いたしましたので、検査のご依頼と併せてご紹介させていただきます。

大震災による原発事故以来、世間では被ばくに対する不安が高まっていますが、この PRIME はそれを従来の 1/8 まで減らすことができます。また、スライス厚や撮影時間の短縮など世界最高またはそれに準じた機能を多く搭載しており、患者負担を大幅に減らしながらも検査精度を格段に向上させることが可能となりました。参考までに胸部から骨盤部までの撮影時間は 6 秒程度で、呼吸などによる画像のブレはほとんどありません。

装置を更新したことにより大腸 CT (CTC) が可能となりました。当院では大腸検査の約半分を注腸検査で行っていますが、CTC はこれに代わるものと位置づけています。また、これから増加すると思われる便潜血陽性者に対する 2 次検査、あるいは検診者に対する 1 次スクリーニングへの応用にも大いに期待しています。

CTC は直腸カテーテルから炭酸ガスを注入するだけで体位変換はほとんどありません。また検査時間は大腸の長さや走行に関係なく 10 分程度ですみます。これを受けた患者さんからは「検査が楽だった」とのご意見を多数いただいております、特に高齢者や体の不自由な方にとっては“やさしい検査”といえます。

CTC の欠点としては表面型の病変を描出することは難しく、内視鏡と比較した場合、5 mm 以下のポリープの検出能はそれに劣ります。利点としては 6 mm 以上であれば内視鏡とほぼ同等といわれており、内視鏡が苦手とするヒダの裏側も観察することができます。

CTC 以外にも下肢血管 CT が可能となり動脈閉塞症などの診断に役立っています。腹部領域ではラパコレ前の DIC-CT (胆道系 CT) で胆のう管がきれいに描出され、意識障害などで体動がある患者さんでもあまり支障なく検査できます。また、今後は冠動脈 CT も実施していきたいと考えています。

当院への検査依頼について

CT、超音波、上部下部バリウムおよび内視鏡などの検査をお受けしています。手順は以下の通り簡単です。

- 1) 先生方より電話にて予約して頂きます。「検査予約」とご指示いただければ担当者が対応いたします。
- 2) 予約の 30 分前に来院して頂き簡単な診察後、検査を実施します。
- 3) 画像はフィルムまたは CD に焼き、レポートと一緒に後日送付いたします。
- 4) 結果は依頼された先生から患者さんに説明して頂きます。

*CT の場合、造影依頼であっても問診の結果により当院医師の判断で造影を中止する場合がございます。

また、腎機能 (eGFR) がわかれば記入して頂くようお願いいたします。

秩父病院 歯科にできること

歯科部長 長谷川義朗 (H17・明海大学)

歯科診療科は秩父病院の移転に伴い 2011 年に設立しました。以降 3 年が経過し地域の皆さまのおかげで現在に至ります。昨年度より秩父郡市歯科医師会にも入会させていただきました。今後より一層地域医療に貢献できるよう努力する所存であります。

私たちの診療内容は一般歯科治療を中心に、口腔外科処置、周術期の口腔管理、医科協力のもと静脈内沈静下での歯科治療を行っています。2014 年より少数ではありますが東京歯科大学水道橋病院口腔外科の協力のもと全身麻酔下での手術を行っています。歯科医師数は常勤医 3 名(男性 2 名、女性 1 名)、非常勤医 1 名(女性)、で口腔外科専門医の先生に手術等のとき不定期ではありますが援助をいただいております。

今回の医療連携会の趣旨でもある「地域で地域の患者さんが十分な医療を受けられること」と「秩父の患者さんはできる限り秩父で処置を完結すること」が歯科診療科の目標であり、この地域への思いであります。

全身管理が必要な歯科治療や口腔外科領域の処置など、歯科診療所で行うことが困難な症例は大学病院や病院歯科で行うことが一般的とされています。都市型の医療圏の場合は大学病院などの医療機関も豊富で通院も困難ではないと思われます。しかしながら当地域の場合は、最寄りの大学病院までの距離が長く公共交通機関も十分に発達していません。通院手段は車がメインとなるため、高齢者などは通院が困難な状況であることは事実です。実際、当院でも大学病院に患者さんを紹介しフォローアップを行っておりますが、患者さんはもとより、病院へ送り迎えをする家族も移動距離が長く大変だったと伺っております。わざわざ遠くに行かなくても秩父で完結できる処置はできるだけ完結することが患者さんとその家族にとって有益であることは間違いありませんし、高齢化が進むにつれ、その有益性はさらに増すと思います。秩父でできることもたくさんあると思っています。

私たちが秩父で歯科診療をスタートして感じたことは、秩父郡市に多くの先生たちが開業され、地域医療に貢献をしているのに、歯科治療を受けたことがない劣悪な口腔環境の患者さんや抗凝固剤・抗癌剤などを服用しているため歯科治療ができないと思い込んでしまっている患者さんが多いということです。先生方もご存じのとおり基礎疾患がある患者さんの場合、歯科治療に制限があることもございますが、きちんと病態を把握しかかりつけ医と連携を取って処置中の管理ができれば歯科治療は十分可能です。秩父という地域的な面からも、医科－歯科の医療連携は取りやすく、場合によってはほかの地域よりもより迅速な診断と治療が可能ではないかと思っております。

私たちは秩父地域の医療に貢献するとともに歯科医師会の先生方のお役にもっと立てるようさらに頑張りたいと考えております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

各種統計資料

病院基本情報

基本診療料	
一般病棟入院基本料 10対1	救急搬送患者地域連携受入加算
救急医療管理加算	歯科外来診療環境体制加算
医師事務作業補助体制加算	急性期看護補助体制加算
診療録管理体制加算	患者サポート充実加算
感染防止対策加算2	病棟薬剤業務実施加算
後発医薬品使用体制加算	
特掲診療料	
開放型病院共同指導料（I）	届出手術
がん治療連携指導料	麻酔管理料 I
肝炎インターフェロン治療計画料	無菌製剤処理量
薬剤管理指導料	クラウン・ブリッジ維持管理料
夜間休日救急搬送医学管理料	
CT撮影及びMRI撮影	

医療連携

開放型病床登録医 41名

オープンシステム 開放型病床	年間件数	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	病床利用患者数	68	114	88
	登録医紹介患者数	409	414	402
	整形外科手術★	64	69	81
	脳外科手術☆	7	7	8

★観血的整復固定術 人工膝関節置換術 人工骨頭挿入術 骨内異物除去など

☆慢性硬膜下血腫除去術など

当院へのご紹介件数

一般紹介	年間件数	平成23年度	平成24年度	平成25年度
	管内	1111	1112	1113
	管外	183	161	239
	その他	64	69	82
	合計（内入院）	1358(521)	1342(433)	1434(440)

当院からのご紹介件数

情報提供	年間件数	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	管内	802	696	850
	管外	447	564	547
	その他	68	86	79
	合計	1317	1346	1476

外来

外来	年間平均	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	1 日平均患者数	181.1	176.3	181.0
	外来患者延べ数	4743	4381	4478

入院

入院	年間平均	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	入院患者延べ数	1359	1403	1359
	1 日平均患者数	44.6	46.1	44.7
	平均在院日数	12.9	13.2	12.9
	病床稼働率	84.8	88.7	85.9

内視鏡検査

上部消化管	年間件数	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	上部内視鏡	1409	1425	1487
	EVL	38	18	10
	EST	5	10	15
	ERCP	10	10	7

下部消化管	年間件数	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
	下部内視鏡	416	447	580
	ポリペクトミー	48	32	30
	EMR	86	94	136
	合計	550	573	746

ドクターヘリにより転送・受入

Dr. ヘリ	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
転送	8	8	9
受入	1	1	0

歯科

歯科	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
外来患者延べ数	3856	5295	5585
術前口腔ケア	95	79	104

画像検査

年間件数		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
造 影 撮 影	上部消化管	70	83	48
	下部消化管	579	525	537
	D I P	1	2	3
	血管造影	24	21	32
	デニス挿入	7	22	28
	胆道系造影*	158	163	133
	術後ガストロ	19	18	16
	エロ、その他	73	70	46
	合計	931	904	843
C T 撮 影	頭部	1466	1429	1251
	頸部	88	95	111
	胸部	1287	1468	1502
	腹部	2293	2351	2422
	その他	14	20	45
	合計	5148	5363	5331
超 音 波	腹部	2827	2805	2685
	頸部	83	91	149
	乳腺	520	501	619
	心臓	292	372	342
	その他	45	30	40
	合計	3767	3799	3835

*大腸 3D-CT (CTC) [平成 26 年 4 月～7 月] 67 件

学会報告数 59

論文発表数 18

症例検討会報告数 (秩父郡市医師会・平成 23 年度～) 19

手術件数

年間件数	H23 年度	H24 年度	H25 年度
虫垂炎	29	35	39
ヘルニア	71	64	70
食道疾患	0	1	0
胃疾患	3	1	4
胃癌	18	14	21
腸穿孔 腸疾患	18	25	25
大腸癌	48	40	41
肛門部疾患	24	11	13
腸閉塞	11	9	1
腹腔内出血、損傷	1	2	0
胆道系 (良性)	56	57	50
肝胆膵癌	7	8	4
後腹膜腫瘍、疾患	0	0	1

年間件数	H23 年度	H24 年度	H25 年度
乳腺疾患	5	6	0
頸部疾患	0	0	0
胸部外科 手術	0	0	0
表皮疾患等	3	1	1
創感染症	1	2	3
整形外科 手術	61	67	76
婦人科手術	2	1	2
形成外科 手術	138	136	139
脳外科手術	6	3	3
ドレナージ 術	1	0	0
末梢血管	2	0	1
その他	9	4	4
合計 (緊急)	514 (81)	487 (101)	498 (94)

平成 23 年度 腹腔鏡下胆嚢摘出術 30 件 平成 24 年度 腹腔鏡下胆嚢摘出術 27 件

平成 25 年度

腹腔鏡下胆嚢摘出術 31 件

ESD (Endoscopic submucosal dissection) 3 件 ESD・DEILO(Double endoscopic intraluminal operation) 3 件

腹腔鏡下胃全摘術 1 件 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術 3 件

腹腔鏡補助下噴門側胃切除術 1 件 腹腔鏡補助下前方切除術 1 件

腹腔鏡補助下回盲部切除術 1 件 腹腔鏡下大網充填 1 件 腹腔鏡下虫垂切除術 1 件

平成 26 年度(4 月～7 月)

腹腔鏡下胆嚢摘出術 9 件

ESD (Endoscopic submucosal dissection) 3 件 ESD・DEILO(Double endoscopic intraluminal operation) 1 件

腹腔鏡補助下幽門切除術 1 件 腹腔鏡下ヘルニア根治術 2 件

腹腔鏡下 S 状結腸切除術 1 件

表彰・認定等

● 彩の国みどりのプラン賞

埼玉県では、一定面積以上の敷地において建物の新築・改築などを行う場合に、緑化の計画を作成し届け出る「緑化計画届出制度」を平成17年10月から行っています。

「彩の国みどりのプラン賞」は、この制度により県に届出のあった緑化計画の中から、特に優れた緑化を行い、維持管理が良好な施設を表彰するものです。

緑化の特徴として、ほぼ全ての窓から緑を楽しめるよう工夫しているほか、緑地管理担当者を常駐し、職員が分担制で維持管理を行うなど、病院が一体となって緑化に取り組んでいる点が評価されました。

● 緑のカーテンコンクール 2013 優良賞

秩父市役所環境立市推進課主催のコンクールです。

夏の暑さ対策・省エネ対策の推進のため、秩父市の市民・事業所などを対象に行われました。2012年に引き続いての受賞となります。

● 病院機能評価 3rdG:Ver. 1.0 認定

当院は去る4月に3度目となる更新審査を受審いたしました。『3rdG:Ver. 1.0』は新たな病院機能評価の枠組みとして、病院の役割・機能などの特性に応じた機能種別が設けられ、評価内容の重点化と認定の定義の見直し、訪問審査体制が変更されました。実態にあった審査を行うためにプロセスの評価に重点が置かれるようになりました。受審の結果、病院機能評価 3rdG:Ver. 1.0 の認定を受けることができました。

● 輸血用血液備蓄病院

● “The Best Doctors in Japan 2014-2015” に選出

外科部長 大野哲郎が米国ベストドクターズ社から、医師同士の評価によって選ばれる“The Best Doctors in Japan 2014-2015”に選出されました。

ベストドクターズ社は米国に本拠を置き、世界各国で病状に応じた適切な治療やセカンドオピニオン取得のための名医紹介などを行っている会社です。

ベストドクターズ社の名医選出方法は、膨大な数の医師に対して、「もし、あなたやあなたの家族が、あなたの専門分野の病気にかかった場合、どの医師に治療をお願いしますか？」とアンケートを行い、その中で治療能力、研究結果、最新医療情報への精通度などを考慮した上で、ある一定以上の評価を得た医師（それぞれの国での医師全体の上位1～5%程度）を名医（Best Doctors）と認定するというものです。

現在、米国で約45,000名の医師が名医として認定されており、日本でも6,098名が認定されています。

● 多様な働き方実践企業

埼玉県が推進するウーマノミクスプロジェクトの一環として、『多様な働き方実践企業』に認定されました。これは、仕事と子育て等の両立を支援するため、短時間勤務やフレックスタイムなど複数の働き方を実践している企業等を県が認定するものです。当院では今年度の就業規則の改定を行い、短時間制度を始めいくつかの制度を監督官庁に届け出ました。その点が認められ認定へとつながりました。

※ウーマノミクスとは ⇒ ウーマン(women) + エコノミクス (economics) の造語
女性の活躍によって経済を活性化すること

● 平成 26 年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰受賞

この度、院長 花輪峰夫の救急医療に対する業績が高く評価され、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を授賞する事が決定いたしました。これは、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した団体（医療機関を含む）や個人を対象として、都道府県知事の推薦のもとに、厚生労働大臣がその功績をたたえ表彰するものです。来る 9 月 9 日（＝救急の日）厚生労働省中央庁舎にて授賞式が行われる予定です。

● 学会認定

日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設
日本消化器外科学会専門医制度関連施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定施設
日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設 健診・人間ドック機能評価認定施設

● 研修医制度臨床研修協力施設 日本医科大学・埼玉医科大学系の 7 病院

日本医科大学付属病院・日本医科大学千葉北総病院・日本医科大学多摩永山病院
日本医科大学武蔵小杉病院・埼玉医科大学病院・埼玉医科大学国際医療センター
埼玉医科大学総合医療センター

● 秩父看護専門学校指定実習病院

● 院内菜園 四季折々の農作物

蕎麦・ジャガイモ・トマト・ゴーヤ・スイカ その他

収穫された野菜・果物は職員食堂にて振る舞われています。

● 当院ホームページのご紹介

下記 URL または QR コードより御覧ください。

<http://www.chichibu-med.jp>



● Facebook ページ開設

下記 URL または QR コードより御覧ください。

<https://www.facebook.com/chichibubyouin.jp>



- プログラム -

総合司会 診療部長 山田正己

(19:00～20:45)

ご挨拶

病院長 花輪峰夫

スタッフ及び専門分野のご紹介

花輪峰夫

機器紹介（当院の多列化 CT の臨床応用）

副院長 坂井謙一

放射線課 技師長 近藤和彦

当院の内視鏡、腹腔鏡下手術紹介

外科部長 大野哲郎

秩父病院 歯科にできること

歯科部長 長谷川義朗

～特別講演～

『埼玉県における地域医療の課題と今後の方向性』

埼玉県保健医療部 医療整備課 課長 小野寺 亘氏

(21:00～22:00)

懇親会